

第七号

昭和五十四年十月二十三日発行

はまゆうと桜貝と海光る

わが故里

鵠沼



会語る鵠沼

鵜沼公民館改築にあたって

伊藤 昌

長い間の念願だった鵜沼公民館の改築はいよいよ着手されます。

「みどりと太陽と潮風」の湘南の中核都市藤沢の、また静かなみどりの中に新しい鵜沼文化、いや新しい日本の文化創造の旗が大きくひるがえるのです。

私は住民運動に、地方文化活動にこ、十年間、ひたすらに新しい道を求めて鵜沼公民館と共に歩いてまいりました。数年前のマスタープランの企画にも参加し、今また「運営審議委員」として、「建設委員」としてそしてこの「鵜沼を語る会」のリーダーとして新しい鵜沼公民館建設に楽しい意欲を燃やしております。

つくるなら、日本一の、いや世界のどこに出してもおくれをとらない素晴らしい公民館を作りたい。いや日本文化の伝統を受けつぎ東洋、西洋の文化の中にあってひとときわ燦然と輝く新しい鵜沼文化を創り上げ

ていきたい。こんな大きな夢を持っております。

そして、この鵜沼ならそれができる。私は確く信じております。

箱根連山を、富士を、伊豆半島を望み、海は青くみどりは深い、

そしてここに住む人々の秀でた才能の数々はきっと素晴らしい文化

を作り出していく事でしょう。私はこれをこの十年間の実践活動、

海岸清掃に、河川の浄化に、草花をふやす運動に子供達のスポーツに、

そしてこの公民館での多くの人と触れ合いの中に知りました。

私の描く夢は決して机上の夢、砂上の楼閣ではございません。

「鵜沼を語る会」も長い間地道な活動を続けてまいりましたが

現在はこの公民館の中心的存在であり新しい鵜沼文化創造

の核でもあります。改築は取り壊し、仮設等にかんりの費用

を必要とし、又不自由も忍ばねばなりません。しかし投じられ

た費用を無駄にすることなくサークル活動を続けていきまし

よう。鵬の大きく羽ばたく日を楽しみに。

昭和五十四年十月二十三日

（鵜沼を語る会リーダー）

（鵜沼公民館運営審議委員）

鵜沼碑文集（其の六）

伊藤節堂

一・	名 称	石 上 神 社 記 念 碑
二・	所 在	鵜 沼 二 三 二 石 上 会 館 隣
三・	建 立	昭 和 九 年 十 一 月 二 十 日
四・	碑 面	記 念 碑
五・	碑 陰	
	本 町 ノ 守 護 神 、 石 上 神 社 ハ 、 従 来 、 町 最 南 端 低 地 ニ 鎮 座 セ ラ レ 、 其 ノ 位 置 極 メ テ 参 詣 ニ 不 便 、 且 ツ 出 水 ノ 都 度 、 社 殿 碑 石 共 ニ 浸 水 ス ル ノ 不 敬 ヲ 憂 慮 シ 、 昭 和 九 年 八 月 七 日 、 部 落 ノ 中 央 現 地 ニ 遷 座 安 置 奉 ル 。 依 テ 之 ヲ 永 遠 ニ 記 念 ス ル 為 メ 、 建 設 委 員 一 同 自 費 ヲ 投 シ 、 茲 ニ 此 ノ 碑 ヲ 建 設 ス	

昭和九年十一月二十日建之

建設委員 姓名いろは順

石井 徳松

加藤 友吉

金原 癸美太郎

安 齊 藤 七

有 村 将

坂 上 勇 市

宮 坂 長 蔵

(其の七)

一 . 名 称 高 山 昇 翁 碩 徳 碑

二 . 所 在 鵜 沼 海 岸 五 ノ 十 一 鵜 沼 伏 見 稻 荷 神 社 境 内

三・建立
昭和三十年五月二十日
四・碑面（題額）

房子

一筋に神の

はけみいつをひろむへく

とはに輝く

碑文

高山昇翁頌徳碑

神宮祭主北白川房子題額

従四位高山昇翁は上野国吾妻郡大宮巖鼓神社の祀

職薩摩守茂樹の長男として元治元年正月生まる

◎
翁資性穎悟孝心厚く父祖の志を継いで皇典講究
所師範科に国学を修め、明治十九年業を了へ、郷里に於
て教育事業に与り、又編輯出版に関与し、世道人心
の帰趨を憂えては斯道会を起こして教育に関する勅
語の普及貫徹を図る等随所に才能を発揮し、二十八年
一転して神社界に入り、官幣大社浅間神社宮司、志
波彦塩釜神社宮司、初代神部署長に歴任し漸※
經歷波瀾少からざれど翁自ら榮とせしは、浅間、巖島
両神社の昇格に力を致し志こと神部署長、神社制
調査会委員に選任せられしことにありしが如し、没
後茲に五年故舊翁を追慕する者相謀りて終焉
の地鵜沼稲荷神社境内の一隅に此の碑を建て
永く其の功績を顕彰す。

く斯界に重きを成せり。三十五年国学院の校舍烏有に帰するや、皇典講究所幹事、国学院主事に聘せられ、能く善後の処理を完遂し、更に今井清彦氏と共に大学昇格の事に力を致し、其の目的を達して、講究所国学院の声価を高からしめ在職十年、再び神社界に入り、大正二年官幣中社、厳島神社宮司を拝命、十三年官幣大社、稻荷神社に栄転し、昭和四年神社制度調査会委員、後神社局参与を兼ね又講究所専務理事、其の他全国神職団体の役員顧問として、経営指導に協力し、途を後進に譲りたる後も、崇敬措かざる東京乃木神社の宮司を欣んで受任し、稻荷大神の神徳を仰ぎては都郊外東伏見及び藤沢市鵜沼に稻荷神社を創建する等、終生斯道の為尽瘁し、其の功労は万人の景仰する所なり。翁体軀雄偉、態度重厚、識見高く、国士の風格あり。居常酒を嗜み、晩年病床に在りても、日日酒盃を手にし、訪客あれば

談笑して無上の快となせり。
昭和二十五年十月安らかに長
逝す。寿八十七。一生の◎

翁会心の詠に曰く

稲荷やまあけの鳥居のあけくれに

祈るは御代のさかえなりけり

昭和三十年五月二十日

国学院大学長石川岩吉 撰

桑原通雄 書

(其の八)

一・名称 聶耳^{ニエアル}記念碑

二・所在 鵜沼海岸二ノ一八引地川河畔

三・建立 昭和二十九年十月

聶耳を記念する

ここは、中華人民共和国の作曲家聶耳の終焉の地である。

彼は一九三五年（注昭和十年）七月十七日暑をこの地に避け水泳中突然波間に姿を没し不帰の客となった。聶耳は一九一二年中国雲南に生まれ、欧陽予倩（セン）先生に師事し、二十数年の短い生涯の間に、中国民衆の労働を歌った大路歌、碼頭工人歌等の大作を残した。現在中華人民共和国国歌となっている義勇軍行進曲もまた、彼の作曲になるものである。耳を傾ければわれわれは今日なお聶耳のアジア開放の声を聴くことができるであろう。こゝは聶耳の終焉の地である。

一九四五年十月

秋田雨雀 撰

豊道春海 書

五・備考一・（碑面）ヨコ六〇・七糎 タテ四三・二糎 厚さ二五・二糎

（注）秋田雨雀は本名秋田徳三、明治十六年青森縣に生れる

（同四十年早大英文科卒業）劇作家、児童文学者。

聶耳が在日中に交流があった。昭和二十七年没七十九才、豊道春海は明治十一年栃木縣に生れる。書を西川春洞に学ぶ。書によって芸術院会員となる。昭和四十二年文化功労者に選ばれる。

昭和四十五年没九十二才。

備考二・なおこの記念碑の傍につぎの碑がある。

碑面、聶耳終焉之地

郭沫若 題

一九六五年七月十七日

昭和四十年七月十七日に建立

高さ四十四・四糎 巾七十・五糎 黒ミカゲ石

郭沫若^{カッマツジャク}は中国の文学者、厂史学者 一八九二年生れる。日本に留

学し、九大に在学した。蒋介石クーデター後日本に亡命日華事

変とともに帰国、中華人民共和国成立後は國務院副総理、

（其の九）

創 生 以 来 群 落 国 家 社 会 を 形 成 し つ つ も な お 絶 え	想 の 園 を 思 わ ず に お ら れ な い 。ま こ と に 平 和 こ そ 人 類	る 雄 姿 を 見 る と き 希 望 と 平 和 の 融 合 し た 人 類 の 理	手 の 拳 に 天 翔 け り 降 っ た 平 和 の 具 象 た る 鳩 を 受 け 止 め	今 台 上 を 仰 い で 、未 来 を 象 徴 す る 若 人 の 高 く 挙 げ た 右	成 し た の で あ る	寄 付 さ れ た 。市 は 更 に 市 費 を 加 え て 、こ ゝ に そ の 建 立 を 完	平 和 像 建 設 を 企 図 し 市 民 の 浄 財 を 仰 い で 、こ れ を 市 に	を 記 念 し 、そ の 不 幸 と 悲 痛 を 再 び 繰 り 返 え さ な い よ う に と	明 治 以 来 殉 国 英 靈 の 遺 族 が 、会 を 創 立 し て 満 一 五 周 年	四 ・ 碑 文	三 ・ 建 立	二 ・ 所 在	一 ・ 名 称	
												昭 和 四 十 年 三 月	鵜 沼 海 岸 二 ノ 一 八	平 和 の 像
													湘 南 海 岸 公 園 内	

間ない戦乱に惨禍を被る国民大衆にとり永遠の悲願としての希求である。願わくはこの像の鳩とともに永遠に平和の去るなからんことを切に祈るのみ。なお終りにこの台座の中には英霊の尊名が安置されていることを書きそえる

昭和四〇年三月

藤沢市長 金子小一郎 撰文並書

像製作者 難波孫次郎

日展会員

五・備考 台座正面 62×18 厘の銅板に「平和の像」と陽刻、
台座表面には 60×60 厘の黒御影石に碑文を陰刻してはめこ
まれている。

(其の十)

一・名称 片山哲先生像

二・所在 鵜沼海岸二二一中央図書館前

三・建立 昭和四十七年五月

四・碑文

片山哲氏明治二十年紀南に生る。こよなく湘南を愛し居を構えてより五十有余年、清節道を守って湘南の人となる。市民諸君より推されて衆議院議員に当選する事十一回、昭和十二年には内閣総理大臣に就任し、戦後の難局処理に当る。その後外遊数回、世界の人物と風光に接し、益々わが湘南の風物、世界に秀でたるを信ず。その真白き富士の嶺、緑の江の島の中心地たる藤沢市の第一号名誉市民に選ばれたる事を生涯の光榮として喜び居れり。

一九七二年五月

林 大作 識

（左側面）

建設 片山哲先生を顕彰する会

彫刻 菅沼五郎

石工 秋元大太郎

鵠
沼
の
地
図

藤 沢 市 鵜 沼 海 岸 二 丁 目 一 〇 番 三 四 号

藤 沢 市 鵜 沼 公 民 館 内

鵜 沼 を 語 る 会

電 話 36 7 4 3 1